

音楽の隠し味 Op.11



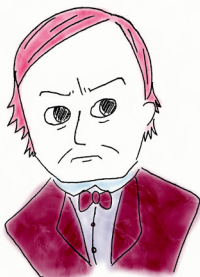
このコーナーでは、作曲家や有名曲の意外な一面を知ること
でクラシック音楽をより楽しめる「隠し味」をご紹介します。

ピアニスト 白川 優希

第11回目はワーグナーです。

ワーグナーはオペラの大家です。作曲家にして異例、自作の台本を使用するなど彼のオペラは完成度が高く音楽・演出・台本全て評価されています。熱烈なファンも数多く、「ワグネリアン」と呼ばれる信者はその他の作曲家を攻撃するようになる程。

今回はそんなワーグナーがこだわり抜いた「舞台演出」が隠し味です。



ワーグナーの実父は熱狂的な演劇愛好家、母親は父が亡くなってから再婚し、養父が舞台俳優です。大家族だった彼の家系には姉が舞台女優など、俳優、オペラ歌手がいて生活の中に演劇がある環境で育ちました。

彼のオペラは、音楽が物語の邪魔をしないよう気を配られています。トランペットやヴァイオリンの音量が歌を上回らないように、そして観客が舞台に集中出来るような工夫を多く施してあるのです。これまでのオペラでは、音楽や歌の技術などが重視されていて演技に細心の注意をはらっている作曲家はほとんどいませんでした。その為演技に慣れていない歌手達へワーグナーは演技指導を幾度も行います。男女が抱き合うシーンではもっと情熱的に!と作曲家自身が手本を見せたり、哀しみに明け暮れる悲しいシーンではもっとと自然に!と表情の指導も行っていたそうです。

細部までこだわった舞台は一般市民にはもちろん、貴族、皇族にも好評でした。そして驚くべきパトロンがつきます。バイエルン国王ルートヴィヒ二世です。15歳の頃から生粋のワグネリアンで、自分が国王になったらワーグナーが構想していたという4部作のオペラ「ニーベルングの指環」を実現してあげたいと考えていました。そして1864年。その日がやってきます。国王になったルートヴィヒ二世の最初の命令は「ワーグナーを探せ」。ワーグナーは支援金をたっぷり受け取り、大作へと取り掛かりました。その時「国のお金でこんなことを」と面白く思っていなかった国王の側近がわざと金貨を多く見える銀貨に替えてワーグナーの家までゆっくり運び、街の人々へ見せつける嫌がらせをしたそうです。彼への評価は賛否両論、熱狂的なワグネリアンがいる反面酷く嫌う人も多かったのです。

さて、ワーグナーは第1作目が出来上がってから13年も経ったのに、「4部作は一気に見なければ意味がない」と頑なに上演を拒否していました。この大作を上演するのに相応しい場所、劇場も作りたいと考えた彼は、国王の援助を

受けてパイロイト祝祭劇場を建設します。

莫大な経費への資金集めや舞台構想の日々。指揮者とオーケストラを舞台の「裏方」として舞台の下にオーケストラピットを作りました。オーケストラが観客から見えないように舞台下に隠したのです。更に客席を薄暗くすることによって舞台を浮き立たせ、話に集中出来るようにと考えます。

苦勞した甲斐があったか、と言われると現実には厳しいものでした。大蛇の模型を舞台上に取り入れたかったのに尻尾だけ届いて頭が中々届かなかったり、本物の馬を舞台に取り入れたくても思うように動いてくれない、極め付けは蒸気機関車を取り入れるものの蒸気で楽譜が見えなくなって演奏が困難になる、役者が自分の歌に熱心になって役作りをないがしろにするなど失敗続きで作曲家はすっかり落ち込んでしまいました。

しかし思うように物事が進まずとも「来年は全て変えてやってみよう」と前向きな一言もあったそうです。

当時では有り得なかった驚くべき舞台演出は、今でも続いています。コンサートの時に観客席が暗くなるのは、なんとワーグナーが始めたことだったのです。

「舞台演出」はワーグナー作品の隠し味となっているのではないのでしょうか。彼の理想とした舞台をいつか見てみたいですね。

🎵 おすすめの一曲

ワーグナー / ニーベルングの指環

4日間の上演全てまとめて「ニーベルングの指環」という超大作です。ファンタジーで時代設定も当時からするとかなり昔の為、時事ネタが無い分かえって見やすい、入り込みやすい内容です。序夜「ラインの黄金」「ヴァルキューレ」「ジークフリート」「神々の黄昏」の4つのオペラは構想から完成まで26年間も費やしています。作曲家は4日間連続で見ることに拘っていましたが、言語も違い、オペラに馴染みのない日本では、あらずじと登場人物をある程度覚えた後で少しずつ見て、2回、3回目に全て通して観ることをお勧めします。おうち時間が増えている今日この頃、ワーグナー作品に挑戦してみたいかがでしようか。

主な参考文献

作曲家別名曲解説ライブラリー(1992年初版、2013年第十一刷)『ワーグナー』音楽之友社

吉田真(2005年初版、2017年第七刷)『人と作品』音楽之友社

文藝別冊(2013)『ワーグナー』河出書房新社

音楽之友社(2000)『オペラ・キャラクター解説事典』

ケルスティン・デッカー/訳 小山田豊(2016)『愛犬たちが見たリヒャルト・ワーグナー』白水社

リヒャルト・ワーグナー/訳 池上純一 松原良輔、山崎太郎(2018)『ベートーヴェン』

門馬直美(1999)『ブラームス』春秋社

西原稔(2005年初版、2006年第二刷)『音楽史ほんとうの話』音楽之友社



白川 優希 Yuki Shirakawa

横浜市立南高等学校普通科卒業、桐朋学園大学ピアノ科卒業。これまでに井上節子、川島伸達各氏に師事。阪急交通社「たびコト塾」有料音楽講座にて講師兼演奏。

メディア

・NHK BSプレミアム 特別ドラマ「黒蜥蜴〜BLACK LIZARD」ピアノ演奏。

・テレビ朝日系列「はじめまして、愛しています。」ピアノ監修。

・フジテレビ系列「世にも奇妙な物語「シンクロシティ」」ピアノ協力(自身出演・演奏)。